

2020/10/23

(うと Q 世話し 「快適さ」を読み替え始めた「ニューノーマル時代」の先駆? )

「お手軽、簡単、便利。これさえあれば (すれば) 何でも OK」というのに対して

「何ごとも手間暇かけないといいものは手に入りませんよ」

という自分の投稿は「即効性、全くなし」ということらしく、全然人気がないようです。

「そんなものに用はない」

しかし、最近ある TV ニュースで

「you tube の中でこんな投稿が密かに人気を集め、再生回数百数十万回になっているそうです」

と言って紹介されたのが、毎日、アパートの一室で、朝食をひたすら作る「映像だけ」を投稿している動画でした。

コメントなし、撮影者は後ろ姿だけで顔は出てこない。

そうして、ご飯は一人前を土鍋で炊き、鰹の塩焼きは開きの鰹ではなく丸のままの鰹だったり、御浸しや出汁巻き卵も手作りだったり。

そんな朝食を毎日作る。

その動画を毎日淡々と投稿する。

その動画を毎日おびただしい数の人たちが見ている。

そうして、この投稿者の年齢が何と 26 歳の男子。

これまでの自分の観察では、理由はわかりませんが 25,6 歳以下と、それ以上の全ての年齢層とで、何か大きな段差があるような気がしておりました。

受け取り方、考え方、生活態度などなどで。

そんな折、この動画を TV ニュースで見、

「ひょっとしたら、それまで以前の世代と「快適さ」の定義が変わり始めているのかもしれないなあ」

と思いました。

お金があれば、何でも簡単に手に入り、物事がスムーズに運ぶ「快適さ」から、

お金がないので、そういった方法では「(従来の) 快適さ」は手に入らないことを知り抜いた人達が「新たな快適さ」を探し始めだしたのではなかろうか? とも。

お金がないので手間暇をかけざるを得ず、遠回りもしなくてはならない。

しかし仮にお金が手に入る position になっても、今迄の「お金の力に頼ったやり方 (ある種の手抜き)」で得られるものは、本当に「快適」と言えるのだろうか? と疑問を抱き始めた人達。

そうして彼らは、それ迄の人達のように「(従来の) 快適さ」を求めてあくせく走り回るのではなく、どっかりと腰を落ち着けて「だったらその不便を、むしろ楽しんでしまう」事から何かを掴もうと模索を始めた。

そういった価値観や「快適さ」の読み替えが、新しい世代の一部で起きつつあるのではない

かな？と思った次第。

自分の希望では、彼らこそが新たに訪れる筈の「ニューノーマル時代」の先駆になればいいなあと考えております。